

会 議 録 (概要)

会 議 の 名 称	佐渡市子ども・子育て支援会議
開 催 日 時	令和元年（2019）8月27日（火）14:00 開会
場 所	佐渡市役所 3階 大会議室
議 題	①「第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画」（素案）について
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出 席 者	参加者 有識者・子育て中の親 12人 事務局 佐渡市 子ども若者課 課長 市橋法子 課長補佐 藤井隆博 指導保育士 山本淳子 子ども若者相談センター センター次長 佐藤淳子 母子生活支援施設 施設長 土屋由利恵 園児支援係長 本田寿之 子育て支援係長 余湖雅美 子育て企画係長 平岩繁美 主任 須田大輔 補助説明者 (株)オリス・日経マシナリー(株)共同企業体 熊倉 高橋
会 議 資 料	(事前送付) ・第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画（素案） (当日配布) ・児童相談件数の推移
傍 聴 人 の 数	0人
備 考	

会議の概要（発言の要旨）

発言者	議題・発言・結果等
-----	-----------

<p>事務局・平岩</p>	<p>【第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画】素案</p> <p>○第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画（素案）</p> <p>第1章 計画策定にあたって</p> <p>第2章 佐渡市の現状</p> <p>第3章 幼児期の教育・保育および地域子育て支援事業計画の展開</p> <p>第4章 施策の展開</p> <p>について審議する。</p> <p>【質疑応答】</p> <p>(第1章 計画策定にあたって)</p>
<p>A氏</p>	<p>○第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画の関連する法案で、平成30年12月に成立した成育基本法が入るのではないかと。法案の内容は、切れ目のない母子の支援ということである。せっかく成立したのだから利用していただきたい。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※国の関連法</p> <p>子ども・子育て支援法</p> <p>次世代育成支援対策推進法</p> </div>
<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>○全く関係ないわけではない。健康さど21等で子どもの発達や健康という部分と包括した事業の中で、その法律を踏まえた事業ができていれば良いと思う。市民生活課と表記について相談する。</p> <p>(第2章 佐渡市の現状)</p>
<p>A氏</p>	<p>○抜本的、画期的なことをやらないと少子化は止まらない。今までどおりのことをやっていけば子どもはだんだんと減っていく。平成30年度の年少人口（0歳～14歳）は5,391人で1割を切った。過去の年少人口のピーク時には、35,000人くらいいた。約七分の一程度まで減少してしまい、このままだと佐渡に子どもがいなくなってしまうということを、皆で共有すべきである。0歳の平成31年度の人数は254人。0歳から5歳児を見ると、3歳児が多いが、これだけの人数では保育園は大変である。要望として、子どもの数が減っても、保育士を減らすということはないで欲しい。質が高く、保育士の現在の配置割合（3:1）も上げてほしい。佐渡市でも0歳児を保育園に預けるケースが増えている。家で十分見てあげられない。家での愛着形成が不十分であるので保育園で子どもに対する愛着形成というものを代行してもらいたい。令和6年度の0歳児の数を222人と推計しているが、甘いと思う。年少人口が35,000人いたときは団塊世代。その子どもたちが団塊ジュニア世代。団塊世代も70歳を超え、団塊ジュニア世代も45歳を過ぎた。子どもを産む年代を過ぎたので、子どもがもっと減る。ここ5年が勝負だと思う。皆さんと情報を共有しながら、画期的、抜本的な改革をお願いしたい。</p> <p>7頁の年齢別の出生数の合計数を入れて欲しい。</p>

	<p>放課後児童クラブに力を入れていただきたい。放課後児童クラブは子どもたちの社会性を身につけることができる。愛着の問題は保育園で、社会性の問題は放課後児童クラブ、または子ども食堂で培って欲しい。ここを強化して、子育ての魅力は佐渡でアピールして欲しい。佐渡へ行けば魅力ある子育てができ、立派な子どもが育つという印象を持ってもらいSNS等で双方向からいろいろな情報を流すことにより、若い人に佐渡では良い子育てができるという情報があつという間に拡散する。情報発信によって、人を島外から呼び込まないと子どもは増加しない。年間子どもが200人生まれたとして100年続いて佐渡の人口は20,000人である。佐渡市は今後30,000人の島を目指すと言ったことがある。30,000人を維持するには最低300人の子どもが100年生まれ続け、一人も島外に出ないと仮定しなければならない。現在の人数では将来佐渡は維持できない。</p> <p>また、ファミリー・サポート・センターのやり方を変えれば、もっと強化できるのではないか。</p>
<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>○お示ししている人口推移は、死亡率と移動率だけを加味したものである。今年度、佐渡市の将来ビジョンと人口ビジョンの見直しを行っている。推移については当計画と合わせる必要があるが、子どもの出生数が200人を切ることはそんなに遠くないと思っている。起爆剤となるような事業を皆様からも提案いただきながら、一緒に作っていききたい。</p>
<p>B氏</p>	<p>○30頁第2章(2)家庭への支援について、「ファミリー・サポート・センターについては利用希望はあるが、実際の利用率は低いことから多様な保育ニーズが望まれる。」ということは、ファミリー・サポート・センター事業については取り組まないということか。それとも、事業に取り組みつつ、多様な保育サービスを充実していこうということなのか。</p>
<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>○ファミリー・サポート・センターは、送迎と預かりのみを行っており、その中のサービスという意味合いで考えている。今できるサービスを増やしていくという表現にしたい。サービスを縮小するのではなく、拡大しなければならないと感じているので、そんな作りこみをする。</p>
<p>B氏</p>	<p>○子どもに合った多様な保育サービスを充実していくという解釈でよいのか。</p> <p>また、その下の「子育てをする上で気軽に相談できない方は5.5%」となっているが、この「気軽に」がキーワードなのではないか。佐渡は小さな地域なので、近所の目が気になることもある。隣同士には声もかけにくい、遠慮であるということもある。その反面、家、地域、集落の中で隣は何をやっているかわからないこともある。地域が疎遠になり、近所付き合いも無くなってきており、無関心なところもあるのかもしれないが、伝統行事、お祭りのなもの、集会、会合も無くなって来ている。地域全体が疎遠になってきているのが現状なので、気軽に声をかけられるところがあるということが大事なのだと思う。地域の中にその場所があるのではなく、少し離れたところ、隣人が気づかない所へ行き、気軽に相談できる場が必要ではないのかと思う。この辺を考慮して取り組んで</p>

<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>いただきたい。</p> <p>○佐渡では、隣近所知り合いばかりで、困っているという声を出しにくい環境である。また、佐渡市に相談しても何も変わらないという声も聞く。佐渡市では子ども若者相談センターがあり、地域の保健師もいる。気軽に相談できる身内以外の相談体制を整備するということに関係課にも周知しながらやっていきたいと考えている。施策の展開に書き込みにくい点もあるが、このような地域活動もしっかり取り組んでいきたい。</p>
<p>C氏</p>	<p>(第3章 計画の基本的な考え方)</p> <p>○基本目標4 配慮を必要とする子ども・家庭への支援体制づくりの文中、ひとり親家庭や児童虐待の恐れのある家庭という表現は、サッと目を通した時に、ひとり親家庭には虐待の率が高いと読み取ってしまう。文章の位置等を見直して欲しい。</p>
<p>事務局 ・市橋課長 A氏</p>	<p>○再考する。</p> <p>○33頁の基本目標1の子育ち。幼児期的人格形成を培う教育・保育とあるが、現在0歳児が保育園に入園しているので、幼児だけではなく、乳幼児としていただきたい。</p> <p>基本目標2の親育ち。ここが一番大切だと思っている。今の親は学ぶことがたくさんありすぎて、大人になるのに時間がかかる。だから親になりきれしていない親が多くいる。この親を支援しなければならない。子、親、祖父母も含めた家庭全体を支援しなければならない状態である。子どもの環境を良くするには、皆で家庭全体を支援をすることである。ある講演会で、ハーバード大学の学生300人を75年間に渡り経過を追った研究結果が発表されていた。幸せな高齢者とは、年収が高く、教育レベルが高く、認知症を発症しないこと。こんな高齢者は、どんな赤ちゃんだったかと調べた結果、母親との温かい人間関係が最も関連するという結果であった。一番最初の基本的な信頼関係が出来ていれば、一生涯に渡って大きな影響がある。乳幼児期の教育の経済効果は大であると言われている。赤ちゃんには母親が必要であり、母親を笑顔にするには父親が必要である。温かい母子関係を築けば、75年経つと幸せな大人になる。そこを目標とするため、温かな母子関係の確立、あるいは維持という言葉を入れてもらいたい。</p> <p>今の若い人たちには、子どもを持つことで人として成長できる、魅力があるんだと伝えたい。それを私たちは応援したい。母親、父親、家庭全体の応援ということに重点を置いていただきたい。</p>
<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>○今、相談ケースの多くを占めている項目である。親育ちを支援できるような体制作りを委員の言葉を引用しながら再考する。</p>
<p>D氏</p>	<p>○35頁の配慮を必要とする子ども・家庭への支援体制づくりに貧困家庭関連を入れても良いのではないか。</p>

<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>○佐渡市では貧困計画を作成していないこともあり、ここにどう取り掛かるのか説明しにくい所であるため、今回は思案したが抜かせていただいた。すべての配慮を必要とする中には貧困も含まれるのだが、表記が変わるかもしれないが、34頁も含め検討させていただきたい。</p>
<p>E氏</p>	<p>○保健所であるので、子育てについて市と同じ計画を推進する当事者であるが、質問をしたい。市や家庭等の役割、ワーク・ライフ・バランス等を考慮し、市内の事業所の役割分担を整理しないのかどうか。市の推進体制も関係課でいろいろと出てくるが、必要に応じていろいろな方が参加できる仕組みだと伺っているので、市内の事業所の中の状況を社長や専務等に聞くことも良いのではないかと。こうしてくれというものではないが、味付けもあってよいのではないかと。</p>
<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>○市の計画の中では、行政の役割、市民の役割として分けている所もあるのだが、子育てについては役割を決めるよりも、皆でやっていかなくてはいけない状況である。行政だから出来ること、親だから出来ること、地域だから出来るということを基本目標として、分類させていただいた。体系は大きく変わらないが、内容を明確に読み取れるよう再検討する。オブザーバーとしての企業の意見は、子ども若者課として弱い箇所なので、来年度以降も地域振興課と連携をとりながら、子育てのためにやさしい企業の制度を組み立てていきたい。</p>
<p>E氏</p>	<p>○市の職員の育児休業取得率について。わずか10%。県内の行政職員の取得率は2～3%。一緒になって取り組んでいるということを具体的な政策にしなくても良いが、出したらどうか。</p>
<p>B氏</p>	<p>○基本目標1 子育ての部分で、教育・保育について量と質の両面の確保を図るとあるが、佐渡市の量の確保は、保育料の補助を一生懸命やってくれている。質の面の確保をしっかりとお願いしたい。こども園や保育所では特色ある保育・教育をやっていると思うが、公立と私立では差が出てくるのではないかと。差が無いようにしていただきたい。私立では特色ある教育を行っている所が多い。子どもが元気なことからじまを基本理念として掲げているので、保育園でも正調佐渡おけさを見たり聞いたり感じたりすることは必要かと思う。佐渡が島が見える教育・保育があると良いと思う。学校教育課でも郷土愛を育むというのがあったので、小さい頃から取り組むことも良いと思う。</p>
<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>○質の面では、有資格の保育士を配置することが大前提である。公立私立に関わらず、私立の保育園等についても、佐渡市から佐渡の子どもの保育を委託しているので全く無関係ではない。保育園の規模もあるため、地域芸能等は地域差が生じる。しかし、小学校につながるためのキャリア教育は保育園でいろいろ取り組んでいる。保育士が地域の名所に散歩に出かけ教えている。また、地域の老人会等と連携してやっているところがある。地域を知る取り組みは保育園でも取り組みながら、小学校へつないでいきたいと思っている。統一的な取り組みは無いが、子どもたちにとって良いというものに取り組んでいきたい。</p>

B氏	○現状として、保育士が不足しているということか。
事務局 ・市橋課長	○有資格の中では、100%十分足りている状況ではない。子どもが減ったとはいえ、障がいがあったり、加配が必要であったりという子どもたちが多い。子どもたちに合った保育サービスの質も向上していくべきと思う。
A氏	○33頁の地域育ちについて。佐渡の高齢者人口は全体の42%。その高齢者をどう利用するかが大事である。高齢者の方は、これまでの子育てのやり方がやりにくいと感している。ぜひ今の子育ての技術を伝えて、子育てに協力してもらいたい。子育て支援のネットワークづくりのところで、子育て支援のネットワーク作りを進めるとあるが、ここに技術を広めと入れてもらいたい。今は怒鳴らない子育てが主流である。家庭内での体罰は犯罪となる。体罰は厳禁。暴言も言葉による体罰となる。言葉による叱責も避けなければならない。今は、叱る、伝える、怒鳴らない子育てとなっている。昔のおじいちゃんは怒鳴る方法しか知らないので怒鳴る。殴る方法しか知らないので殴る。これでは今の子育ての応援にはならない。今の子育ての方法は技術である。その技術を高齢者に伝えて、子どもたちに貢献して欲しい。42%の高齢者は佐渡の宝である。技術に関しては、いくらでもある。ペアトレ、基本は行動療法、応用行動分析等の技術を使う。言葉は難しいが、やることは褒めるだけである。言葉によってその子がやっている適切な行動を言葉で表現し、褒めまくる、承認するというだけである。常に承認していると、間違っただけの行動をした時に承認を外すだけである。いつもと違い、自分の方を大人が向いてくれないと子どもは気付く。気付いて適切な行動を始める。そして認めてやる。これには技術が必要である。講義を聴くだけでなく、実践で練習する必要がある。今、保育士が一生懸命勉強をしている。佐渡の子育て全体の技術を上げないと子育ての実力もつかないので、高齢者が参加してくれるよう戦略化したい。してほしい。
事務局 ・市橋課長	○褒めることは難しいが、練習しかない。親御さんたちには分かってもらいたい。親御さんたちが一生懸命やっていることはわかっているので認めてやりたい。 施策の地域育ちは、教育基本計画の中での社会教育部分が充実することで子どもたちがより一層学力や地域性を向上させたりするための一つの仕様だと思っている。教育委員会との連携は必須であり、生涯学習の中の家庭教育を充実させて連携していくことをこの計画策定の中で話し合っている。
	(第4章 幼児期の教育・保育および地域子育て支援事業計画の展開)
事務局 ・市橋課長	○見込み量が出ていないため、数値が確定した段階で質問を承る。
	(第5章 施策の展開)
C氏	○64頁の子育て支援情報誌の作成について、情報媒体としてネットに挙げ

	<p>ることに力を入れてほしい。自分でもできることはないかと思い、夏休みに独身の女性や子ども連れのお母さんと呼び、佐渡の良さをわかってもらうツアーを計画した。実際やってみて感じたことは、ファミリー・サポート・センターのような短時間子どもを預かってもらえるところがなくて困った。島外から来た人が短時間預けることができるシステムがあると良いと思った。佐渡の子育てに関する情報が島外では全く見つからない。海がきれいだとか、地場産の野菜の情報といったものが、島内の知る人ぞ知る特定の人たちだけの情報となっている。佐渡に来てもらわなければならない状況の中で、情報が少なすぎる。佐渡市の持っているプログラムの紹介だけでなく、佐渡市が持っている魅力、その魅力が子どもが元気なことからじまにつながっているということを見える形で発信すべきである。観光以外でやらなければいけないと思う。</p>
<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>○佐渡市は今年度将来ビジョンを見直している。子ども若者課はそのメンバーの一員でもあるため、佐渡市の子育てビジョンについて意見を出したいと思っている。子育て支援を大事にしてないと佐渡市の将来が危ぶまれる。佐渡に島外から人が来てもらうには、子育て支援が必須であると思うので最上位計画に書く。SNS等情報はいつでもどこでも収集できるが、子ども若者課の情報だけでは十分ではなく、世界遺産、ジラス、ジオパーク等で行っている親子の取り組み等を一方通行のものではなく、双方向で収集できるような仕組みを確立する必要がある。それをビジョンの中に盛り込もうと考えている。</p>
<p>F氏</p>	<p>○ペアレントトレーニングについて。基本的には気になる家庭に対して、必要に応じて個別の対応をするということだが、今の子育てにはペアレントトレーニングは特別な内容ではなく、どの家庭の親にも知ってもらいたい。私自身も受講し、誰に対してもよい内容だと思った。気になる家庭があっても、助言しにくい状況であるため、誰でもが受けられるものになってほしい。ペアトレが佐渡市の子育ての手段の一つとしてその手法が広まる環境となってほしい。夜、勉強会を開いてくれるが、母親が夜出かけるのは難しい。もう少し気軽に学べる機会があると良いと思うので、特別な方という表記ではなく、全体に広がる表記にしてほしい。</p>
<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>○子ども若者相談センターでペアトレを担当している。学童からスタートし、幼児期から困っている方がいたので幼児版を年1回開催することから始まった。現在は年2回コースで学童版がある。幼児版は3回同じものをやり、コースを増やしているところである。小学校、保育園を通して周知し、小学校低学年、保育園では4・5歳の全家庭に配布している。「気になるお子様」と表記されているが、職員も気になるところである。開催する側とすると、気になるところがない親と気になるところがあり気がかりなところがある親との温度差がある。子どもの特性に困っている親に対しての適切な支援が出来なくなりつつある。夜の会として、支援者のためのペアトレ講座というものを開催している。熱心に受講している保育士もいる。 また、支援者のためのペアトレ講座を年10回程度開催している。広報誌</p>

<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>に祖父母用のペアトレ講座の4コマ漫画を掲載した。その漫画を活用して、保育園の祖父母学級や小学校入学時前検診時の親御さんの待ち時間等に具体的な絵を使って啓蒙をしている。</p> <p>○気になる家庭に対しては必要に応じて個別の対応をすると表記されているが、誰でも気軽に相談できるという表記にしたい。</p>
<p>D氏</p>	<p>○ペアトレは基本的に発達障がいの子どものを持った保護者のためのトレーニングであるが、一般の保護者のニーズもあるのであれば、地域に出向いて開催することも良いことだと思う。しかし、予算が伴うことなので大変だと思うが、普通の研修会では身につかないトレーニングである。NPプログラムは各地区でやっているの、ペアトレが地域に出向くということは良いアイデアだと思う。また、父母だけではなく、祖父母対象にも考えていただきたい。</p>
<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>○将来5年先を見据えての計画なので、将来の夢をたくさん出したい。検討という形になるかもしれないが、出前講座等の内容で表記させていただくかもしれない。</p>
<p>B氏</p>	<p>○66頁下の表記について。事業名が「放課後児童健全育成事業(学童保育)」となっているが、54頁では「放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)」となっている。放課後子ども教室と児童クラブが混同しやすい。正しいのはどちらか。</p>
<p>事務局 ・市橋課長 事務局 ・市橋課長</p>	<p>○国は「放課後児童クラブ」としているの、66頁は表記を訂正する。</p> <p>○小児医療の充実について。佐渡市は外来及び入院にかかる医療費の助成を18歳まで拡充して行っており、県内でも充実していると思う。この助成の継続はしていくが、そのほかに健康推進、歯科保健事業等で望むものはあるか。</p>
<p>A氏</p>	<p>○おたふく・ロタウィルスワクチンの無料化を望む。任意接種でロタウィルスの経費は全部で30,000円くらいである。おたふくについては、1000人に1人くらいの割合でムンプス難聴になる子どもがいる。医療費の助成は大変ありがたい。</p> <p>福島県磐梯町のように、生まれる前から中学校卒業まで一人の保健師が切れ目なく子どもに関わる体制(ネウボラ)を佐渡市でも取って欲しい。今、誰にも相談することが出来ない母親が増えている。また、一人一人の子どもの個別教育計画を立ててもらいたい。子どもの特性に応じて、その子の発達を見極め、適切な働きかけを継続することが理想である。夢を語るのであれば、ネウボラを計画に入れていただきたい。</p>
<p>事務局 ・市橋課長</p>	<p>○行政でやるには限界があるが、ネウボラは良い制度だとは思っている。保健師等が不足している状況だが、人が変わっても継続できる支援があるはずなのでそのやり方が何なのか、市民生活課と相談しながらやっていく。歯科関係で、子どもたちに対して栄養士が歯磨きやご飯等の指導はして</p>

G氏	<p>いるが、佐渡は虫歯を持っている子どもが多いと聞く。医療の立場から子育て支援策としてやれることは無いか。</p> <p>○佐渡市の子どもたちの虫歯は県内ワースト1である。歯科医師会と佐渡市役所、保健所とで「さど歯っぴーキッズプロジェクト」を結成し、月1回会議を行っている。その会の中で生まれた事業が歯科保健事業とフッ化物歯面塗布事業である。以前のフッ化物歯面塗布事業は個別の歯科医院での塗布だったのだが、実施事業率も上げたいということで、1歳6ヶ月検診のときに集団塗布に切り替えた。それをきっかけに歯科医院で歯面塗布に来てくれるであろうと想定して、始まった事業である。様々な啓発活動をしていく中で行き着くのは、貧困という問題である。虫歯は生活習慣病なので、生活習慣がきちりしている子どもは虫歯が少ない。それができていない子どもは虫歯がたくさんある。その親も虫歯だらけであろうと想像できる。その子どもたちや親をどうやって教育していくかが今の大きな課題である。</p>
事務局 ・市橋課長	<p>○虫歯の問題は、保育園でも保育士や歯科衛生士が取り組んでいるが、減らない。</p>
G氏	<p>○1歳6ヶ月の子どもたちの虫歯は今年度かなり減った。その子どもたちが少ないまま大きくなれば、3歳児も減るはずである。その動機付けをどうするかが今の課題である。</p>
事務局 ・市橋課長	<p>○小児医療の充実という言葉の使い方が正しいのかどうか教えていただきたい。心身の健康の中には歯科診療も入ってくる。あえて小児医療の充実と特だとしても良いのか。小児医療の言い方を換えて考えた方が良いのか。佐渡市では医療費助成しかやっていないので、これで良いか。</p>
A氏	<p>○子どもの健康の推進はどうか。</p>
事務局 ・市橋課長	<p>○基本目標1子育ちの(2)子どもや母親の健康の確保となっているが、母親も含めて、健康の確保と推進ということにまとめても良いか。(3)小児医療の充実を省き、一つにしてもかまわないか検討する。</p>
D氏	<p>○76頁の外国につながる子どもという表現が不自然だと思う。</p>
事務局 ・市橋課長	<p>○外国にルーツのある、という表現をするが、改めて検討する。</p>
B氏	<p>○具体的な事業で空欄の部分は後で付け足すということか。</p>
事務局 ・市橋課長	<p>○そのとおりである。</p>
F氏	<p>○69頁の学校・家庭地域の連携促進事業で、「来年度までに放課後子ども教室を現在の4校から5校にする」とあるが、1校増やす計画なのか。国の政策の放課後子ども総合プランで2019年から2023年の目標として「放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体化を目指す」とあった。実際</p>

	<p>関わっている者として、放課後児童クラブも放課後子ども教室も放課後に子どもたちを預かるという同じことをやっているのもう少し連携したい。事業計画として盛り込んでいただきたいがどうか。</p>
事務局・平岩	<p>○社会教育課からの報告によると、現在4校実施しているが、来年度は1校増やし5校の実施を目指すであった。</p>
事務局 ・市橋課長	<p>○社会教育事業を充実させることが子育ての充実につながると思う。教育委員会には再度申し入れをして連携できる事業があれば載せていきたい。</p>
C氏	<p>○子どもの居場所についてプログラムを考えている団体があっても運営ができないところがある。例えば、不登校の県外の子どもたちを佐渡に呼び合宿をさせたり、オールイングリッシュ合宿をやりたいという団体等に補助があると、もっと子どもの居場所づくり事業が充実するのではないか。中一ギャップを私自身が経験し、不登校について何かあると良いと感じた。</p>
事務局 ・市橋課長	<p>○今年度からアフタースクールのご協力を得て、学校に行きにくい中学生に対し、生きる力を養う場所を提供してもらっている。そこに行けば学校の単位、出席日数がカウントされるようにと教育委員会に要望していく。しかし、それを民間がやる場合、2分の1補助はよほどのことが無い限り増えないと思う。このような計画を作りながら、民間が出来るようになるまで、行政が実施していく。民間が居場所づくりを立ち上げる時の支援は今の補助制度としては非常に組み立てにくい。考えられることは委託で受けてもらい事業化する。国も同じ課題を持っているので、国から直接来る補助制度等を私どもが探す必要がある。居場所づくりの要項を見直してはいるが、2分の1補助がクリアされないと使いやすいものにはならない。買える物とか支給できるものを増やすことを考え、これらを若干盛り込んでいる。行政と民間どちらがやるにせよ、こんなことがやりたい、行政がこんなことをやろうと思っているが民間がやってくれるのであればこのやり方があるというような計画にしたい。教育委員会との連携は必須なので改めて見直しをする。</p>
A氏	<p>○59頁の子どもや母親の健康の確保で、成育基本法の内容を入れてもらいたい。成育基本法とは、成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な育成医療等を切れ目なく提供するための施策推進に関する法律である。成育医療という言葉が使えるので、妊婦も赤ちゃんも含めた医療ということで、成育医療の推進という言葉はどうか。</p>
事務局 ・市橋課長	<p>○この法律も踏まえ、健康推進室と協議する。</p>
B氏	<p>○77頁の子ども若者課の事業で、39歳までの若者を対象に総合相談窓口を設置し、とあるが、引きこもり相談の件数はどのくらいあるか。</p>
事務局	<p>○若者相談は今年度に入り、実人数20人くらいである。相談内容としては、</p>

<p>・市橋課長</p>	<p>就労関係が最も多い。子ども若者相談センターが開設して7年目であるが、相談件数は1000件を超えた。乳幼児期の虐待等の相談が非常に増えている。これは地域の方々が子どもや家庭に気付きを持っていただいた結果だと思う。また子ども若者相談センターが地域に認識されてきた証拠でもあると思う。療育部門のベースが出来てきたので、今年度からは学童期と青年期を支えていく仕組み作りに力を入れる。社会教育のスポーツ交流等を事業化することにより、佐渡の若者たちが元気に、地域の担い手となってくれると思うのでご協力願いたい。</p>
<p>B氏</p>	<p>○計画を見ると、関連した課が複雑に入り組んでいる。難しい部分がそれぞれ事業を行っているので大変だと思う。職員の皆さんは健康に留意され、頑張っていたきたい。</p> <p>【閉会】</p>